

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 11月11日

【評価実施概要】

事業所番号	2775502012
法人名	社会福祉法人 朋寿会
事業所名	あすか八尾グループホーム
所在地	〒581-0056 大阪府八尾市南太子堂4丁目1番14号サンライズ東宝2階 (電 話) 072-925-7111

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年10月23日	評価確定日	平成21年12月28日

【情報提供票より】(平成 21 年 9 月 10 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3人, 非常勤 7 人, 常勤換算 8.9人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	7 階建ての 階 ～ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000と55,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,200 円	

(4)利用者の概要(9 月 10 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.38 歳	最低 82.81 歳	最高 93.73 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	つちだクリニック 坂東ひまわり歯科クリニック 八尾徳州会総合病院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは、市民病院などが移築され再開発された久宝寺駅から近く、八尾市の南西端にあります。マンションを改装した2階にグループホームがあり、1階には小規模多機能事業所を併設しています。家庭的な環境と自立の継続ができるように心がけ、利用者本位の支援に力を注いでいます。利用者は朝の居室や共用部分の清掃を職員の力も借りながら積極的にされ、出来る事に視点を置きサポートする事で利用者の自信に繋げています。職員は年に2回、自己評価の中で目標を設定し、利用者支援の中で実践の振り返りを行いモチベーションを高め、離職も少なくゆとりのある職員体制であり、大家族の様な雰囲気の中で利用者が暮らしておられます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目①	前回の評価結果を受け、地域の関わりへの改善に向けて話し合っています。併設の小規模多機能事業所と合同で餅つき大会を企画し、地域へ呼び掛ける計画であり、初心に帰り地域活動に目を向ける事を職員間で検討しています。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、白紙の自己評価票を職員に配布、記入を促しリーダーが記入し管理者が確認を行い作成されました。作成後は、職員に見てもらっています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域の民生委員、老人会、地域包括支援センター職員、家族、利用者が参加し、併設の小規模多機能事業所と合同で、2ヶ月に1度行われています。市の報告フォーマットに沿って実施サービスや健康面での留意点などを報告し、それをもとに意見交換が行われています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時には出来るだけ声かけを行い意見を聞くようにするとともに、大きな行事に家族の参加を呼びかけ参加時には意見が出しやすい状況作りに努めています。意見が出された場合には、出来るだけ即答できるようにしたり、担当者で解決に向け話し合い本人に返答するようにしています。また、第三者委員会の設置や窓口がある事を伝えています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議や委員である民生委員を通じて地域情報を収集しています。中学校の演奏会の見学や、体験学習の受け入れを行い、ボランティアの紹介を受け行事に組み入れ、折り紙教室などが行われています。隣接する貸農園の方々に挨拶をしたり野菜の作り方を聞くなど交流があり、ホームでは餅つき大会を地域に向けて企画する予定です。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所立ち上げ時に職員の話し合いのもとにホーム独自の理念を設定されている。家族的な環境と自立した生活をキープポイントとされ、地域での生活があってこそその日常生活と、地域を密着を意識し位置付けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関に理念を掲示し、理念に沿った支援を心がけている。日々、利用者に沿ったケアや利用者のペースでの生活が出来ているか確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員を通じて地域情報を入手し、地域の行事への参加や、中学校の運動会や演奏会への招待に応じ参加されている。また、中学校から体験学習の受け入れを予定している。隣接する貸農園の方々に作物の育て方など教えて頂き、年末には地域の方々に呼び掛け餅つき大会を企画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受けて、地域との関わりに向けた改善が検討されている。今回の自己評価については、白紙の自己評価票を職員に配布し、ケアマネージャーが管理者の確認の上まとめている。まとめたものは、申し送りノートと共に回覧し、職員間で共有するとともに意義の理解に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能と合同での運営推進会議が、2ヶ月に1度行われている。民生委員、老人会、地域包括支援センター職員、家族、利用者の参加で話し合われている。市からの議事録フォーマットがあり、検討事項が明確になり意見交換がスムーズに行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に出かけた時には意見交換の機会があり、困難事例等があれば、いつでも気軽に相談し合う事が出来ている。また、研修内容の検討などサービス向上に繋がる取り組みに向けた話し合いがなされることもある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には利用者の日々の様子を報告されており、月々の請求書には、ケアマネージャーが利用者の様子を書き加え送っている。広報誌を季刊ごとに発行し全体の様子が分かるようにしている。金銭管理は、預かり金を出納帳に記録し、月々コピーを送付している。年度ごとに領収書をファイルし、家族に返却されている。	○	出納帳のコピーは毎月送付し年度ごとに領収書を返却されているが、確実なものにするためにも毎月請求書と共に領収書を送付し、来訪時などに出納帳にサインなどを頂き確認をしてもらってはいかがでしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には出来るだけ声を掛け意見を聞くようにしている。意見が出た場合には出来る限り即答するようにしており、担当者で話し合い、解決に向け検討し返事を返すとともに、運営に反映できるようにしている。第三者委員会の設置や苦情窓口の案内を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1年間、職員の離職は無く、安定した職員体制で運営されている。職員は年2回自己評価を行い管理者が面接を行っている。職員は出来る事を目標に掲げ実践に繋げている。また管理者は様子を見て相談事や悩みを聞くなど、チームワークにつながるよう配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、情報が届けば希望を募り、該当者は業務として派遣している。内部研修はこしばらく滞っており、再開の検討中である。外部研修の参加者は、研修報告書を作成し、伝達研修を行ったり、申し送りノートで共有している。	○	ホーム内でのサービスの質の向上のためにも、検討中のホーム内研修の実施を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会があり、会合のみならず研修を始め職員の交換研修の機会が提案されている。また、法人内の職員間での交流機会もあり、他業種も含めて交流の機会は大きな学びの場となっていると管理者は考えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用検討の方には必ず見学に来て頂くようにしており、昼食やお茶を共にし、夕方まで居られるなど雰囲気を見てもらっている。また家庭訪問をして居室を見学する事で、入居後もできるだけ居室に近い配置を考えるなど配慮を行っている。入居後は家族の協力も得ながら出来るだけ早く馴染めるよう、集中的に関るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全員が女性の入居者で、掃除の仕方や買い物での野菜の選び方など、生活歴を生かしたアドバイスがあり職員は多くの事を学んでいる。昔のビデオを見ながら利用者の若かった頃や苦労話を聞き、共に泣いたり笑ったりの場面があり、利用者理解に繋がっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や利用者の現状を知るとともに、出来るだけ昔の状況を聞き取り思いの把握に努めている。センター方式の一部を利用しつつ、後々語られた事などを記録に追記し、またつぶやきや何気ない会話から、利用者の思いを引き出すようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には面会時に意見を聞き、往診時の医師からの意見、看護師の記録など関連する人々の声を反映し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月全職員が関わるカンファレンスやモニタリングを行い、半年に一度の見直しに繋がっている。状況の変化や緊急時には状況に即した変更を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	できるだけ利用者の希望の実現に努めている。独居であった利用者とお墓参りの同行で昔馴染みの方に出会って利用者の大きな喜びに繋がったり、今まで利用していた商店への買い物や喫茶店などへの同行など柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には希望に沿ってかかりつけ医が決められている。協力医療機関からは週1度往診があり、24時間の対応が可能である。また小規模多機能からの看護師の協力や口腔ケアを兼ね歯科衛生士や歯科医の往診、マッサージ師の来訪があるなど適切で安心に繋がる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にはホームの指針を説明しており、状況の悪化の中では、家族関係者の立会いのもとに話し合っていく意向である。実際の経験は無いが、研修を行い職員への周知を図る予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導などの声かけには特に配慮するようにしており、入浴時には同性介助を心がけている。言葉遣いに不適切な事があればお互いに注意しあうようにしているが、実際の声かけは穏やかである。記録物については鍵付きの書庫に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間などは決められているが、利用者は朝など自由に起床され、気分に合わせて生活が始まっている。日常的にも利用者の意向を尊重し状況に合わせて支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ゆとりのある人員配置を心がけ、ゆったりと食事がとれるようにされている。調理、配下膳、食器を洗うなど利用者のできる事を職員と共に行い、食を楽しむ事を重視している。また、職員も利用者と同一テーブルに着き同じものを頂いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう準備をしており、希望に沿って入浴ができる体制にあるが、利用者のADLの低下や入浴の頻回による体調不良を起こすなどの事例もあり、週に2回の入浴ができるように体制を変更されている。入浴拒否傾向の方へは声かけの方法などに工夫をして、利用者に応じて好みのシャンプーを用意し、一人ずつ湯を入れ替えるなど、個々に合った入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の掃除は各自と位置付け、職員が手伝いながら行って頂いている。また、洗濯物をたたむなど役割として手伝ってもらう事で自信のある生活に繋げている。また、好きなものを食べれるよう外食の機会を設けお寿司など食べに出かけており、利用者は楽しみにされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺への散歩を日々の日課として出かけている。外出は利用者の楽しみとなっており、買い物や喫茶店など希望に沿うように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、非常口共に施錠されていないが、玄関はセンサーを設置している。家族にはセンサー設置を説明し、職員は拘束などの研修を行い、利用者が外に出たような素振りがあれば、納得の行くまで付き添っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いは無いが、年2回ホームで昼間を想定した避難訓練を行っている。町会にも緊急時の協力を働きかけている。	○	消防署に立ち会ってもらい、マンションの方々に呼びかけ消火器の使い方やAEDの使い方などを一緒にされてはいいかなと思います。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を記録しており、法人の管理栄養士が献立を立て、栄養面での配慮がなされている。小さな器を利用する事で少量摂取の方にも違和感などを感ぜられないように工夫をしている。利用者の状況に合わせて、ミキサー食や栄養補助剤の摂取など医師の指示や家族との相談の上対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室部分は大きく3つのコーナーに分けられ、コーナーごとに応接セットやソファが配置されている。食事時の配置に苦慮される事もあるが日常的には居場所の確保に繋がっている。季節感が感じられるようにとの職員の思いは、花を飾ったり折り紙で飾りを作ったりと工夫が感じられる。外には農園が広がり、野菜などを頂き季節感と共に情景が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や趣味の飾り物、写真や人形と、利用者にとって思い出の多いものがそれぞれの利用者の居室にあり、今まで生活してきた居宅に近づける事で安心し、居心地よく過ごせるように工夫している。		